

アオスジオグロベラ(新称)の日本からの記録

昆 健志¹・吉野哲夫²・瀬能 宏³

¹〒164-8639 東京都中野区南台1-15-1 東京大学海洋研究所海洋生命科学部門分子海洋科学分野

²〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1 琉球大学理学部海洋自然学科

³〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499 神奈川県立生命の星・地球博物館

(2003年5月28日受付；2003年8月22日改訂；2003年9月3日受理)

キーワード：オグロベラ属, *Pseudojuloides severnsi*, アオスジオグロベラ, 日本初記録

魚類学雑誌
Japanese Journal of
Ichthyology

© The Ichthyological Society of Japan 2003

Takeshi Kon*, Tetsuo Yoshino and Hiroshi Senou. 2003. First record of a small-fin wrasse, *Pseudojuloides severnsi*, from Japan. *Japan. J. Ichthyol.*, 50(2): 159–163.

Abstract Three specimens of a small-fin wrasse, collected at Kerama Islands and Chi-bishi, off Naha, Okinawa Island, Japan, were identified as *Pseudojuloides severnsi* Bellwood and Randall, 2000 on the basis of the following characters: slender body, small caudal fin, single pair of canine-like teeth anteriorly on jaws followed by incisor-like teeth, IX 11 dorsal fin rays, 13 pectoral fin rays, terminal phase with a large blue-margined black patch covering posterodorsal region of head and anterodorsal one-third of body, and initial phase with a white line extending along upper jaw and passing below orbit to rear orbital margin. The specimens constitute the first confirmed record of the species from Japan, although a number of underwater photographs of *P. severnsi* have been taken at Ie-jima Island (Okinawa), Kashiwa-jima Island (Kochi) and Izu-oshima Island (Tokyo), the last-mentioned locality being the northernmost recorded for the species.

*Corresponding author: Department of Marine Bioscience, Ocean Research Institute, The University of Tokyo, 1-15-1 Minamidai, Nakano, Tokyo 164-8639, Japan (e-mail: kon@ori.u-tokyo.ac.jp)

才 グロベラ属(*Pseudojuloides*)は、体高が低い、尾鰭が小さい、背鰭条数9棘11または12軟条、両顎前端に犬歯状歯が1対あるなどの特徴をもつ小型(多くは体長10cm以下)のベラ科(Labridae)魚類であり、世界で11種が知られてきた(Randall and Randall, 1981; Kuiter and Randall, 1995; Bellwood and Randall, 2000; Parenti and Randall, 2000)。本属魚類はこれまでに日本からオグロベラ*P. cerasinus* (Snyder), オトヒメベラ*P. elongatus* Alyling and Russell, マイヒメベラ*P. atavai* Randall and Randall, スミツキオグロベラ*P. mesostigma* Randall and Randallの4種が報告されていたが(瀬能ほか, 1997; Yoshino and Yoshigou, 1997; 島田, 2000), さらに益田・小林(1994)によって種名未詳の1種の水中写真が公表されていた。今回、沖

縄諸島近海より得られたその種名未詳種3個体の標本を観察したところ、*Pseudojuloides severnsi* Bellwood and Randall, 2000と同定されたため、日本初記録種として報告する。本報告によって日本産オグロベラ属魚類は5種となる。また、これまでに日本国内で撮影された画像資料を併せて検討した結果、*P. severnsi*の分布北限が伊豆諸島伊豆大島になることも明らかになった。

本報告では、幼魚と雌成魚および体色未変化の一次雄が示す体色を始相(initial phase), 一次および二次雄成魚の示す体色を終相(terminal phase)とした(鈴木, 1989)。Bellwood and Randall(2000)による本種の原記載では、始相の体色を同属他種と比較していないので本報告において行った。なお、報告に用いた標本は琉球大学理学部海洋自然科学

科(URM)に保存されている。また、画像資料は神奈川県立生命の星・地球博物館魚類写真資料データベース(KPM-NR)所蔵のものを使用した。計数計測方法は主にHubbs and Lagler(1958)に従い、尾柄長(臀鰭基部の最後部を通る垂線と尾鰭基部との水平距離)はRandall and Randall(1981)に従った。

Pseudojuloides severnsi Bellwood
and Randall, 2000
アオスジオグロベラ(新称)
(Figs. 1-3)

Pseudojuloides sp. Burgess et al., 1988: 461, fig. 358
(産地不明); 益田・小林, 1994: 264, figs. 1-2
(沖縄県慶良間諸島).

Pseudojuloides severnsi Bellwood and Randall, 2000:
2, figs. 1-5 (原記載; タイプ産地, Kalabahi Bay,
Alor I., Indonesia)

記載標本 URM-P 17654, 終相1個体, 標準体長(SL) 89.2 mm, 沖縄島那覇沖チービシ, 水深38 m, 1986年6月29日, 杉井昌智採集; URM-P 18763-18764, 終相および始相それぞれ1個体, 95.7 mm SL(終相), 75.8 mm SL(始相), 沖縄県慶良間諸島嘉比島, 水深25 m, 1987年5月12日, 小野篤司採集。

画像資料 KPM-NR 36607, 終相, 沖縄諸島伊江島, 水深50 m, 1998年6月4日, 湯野川恭撮影; KPM-NR 62481-62482, 終相, 伊豆諸島伊豆大島, 水深27 m, 撮影日不明, 大沼久之撮影; KPM-NR 62547-62549, 始相および終相, 伊豆諸島伊豆大島, 水深24-26 m, 撮影日不明, 大沼久之撮影。

標徴 本種の終相は、青色で縁取られた大きな黒色斑を体前部の背側から中央部下方にかけて持つこと、背鰭全長にわたって橙色の縦帯を持つこと、尾鰭背側と腹側に黒色帶を持つことで、同属他種と容易に区別される。始相は顎の上部前端から眼窓の下方を通り眼窓後縁に達する白色の縦帯を持つことで、スミツキオグロベラを除いた同属他種と区別される。

記載 背鰭条数IX, 11; 臀鰭条数III, 12; 胸鰭条数13; 側線上方鱗数3; 側線下方鱗数8 1/2; 背鰭前方鱗数7-8; 鰓耙数15。

標準体長に対する各部位における計測値の百分率: 頭長(22.2-24.0); 体高(21.6-23.7); 体幅

(12.4-14.2); 吻長(10.8-12.0); 眼窓径(6.6-7.4); 両眼間隔(6.4-7.1); 尾柄高(8.4-9.6); 尾柄長(8.8-9.8); 背鰭前長(30.4-30.5); 臀鰭前長(56.3-59.4); 腹鰭前長(37.4-39.5); 尾鰭長(終相20.2および20.6, 始相19.1); 背鰭第1棘長(5.5-6.0); 背鰭第9棘長(8.6-10.4); 最長背鰭軟条長(10.7-11.7); 背鰭基底長(58.6-59.9); 臀鰭第1棘長(2.5-4.3); 臀鰭第2棘長(4.3-5.3); 臀鰭第3棘長(6.2-8.7); 最長臀鰭軟条長(9.9-11.1); 臀鰭基底長(32.3-34.8); 胸鰭長(16.5-17.8); 腹鰭棘長(8.0-9.4); 腹鰭長(14.6-15.8); 上顎長(7.7-8.4)。

体は伸長し、やや側扁する。口は小さくて端位であり、口裂はやや斜行する。上顎後端は前鼻孔前縁下に達する。口唇は厚めで、閉口時に上唇の一部が下唇を被う。上唇には顎に沿って顯著に腹側へ突き出た皮弁がある。両顎前端にはそれぞれ1対の外曲した犬歯状歯を備え、閉口時には上顎歯と下顎歯が合わさる。その後方には門歯状歯が上顎に片側4-7本、下顎には6-8本ある。口角に犬歯状歯がない。

前鰓蓋骨上端は眼窓下縁の高さ付近にあり、前端は前鼻孔下に達する。鰓耙は比較的短く、隅角部のものが一番長い。

鼻孔は小さく、前鼻孔は眼窓上縁の前方にあり、後鼻孔と眼窓間の距離は両鼻孔間よりも短い。側線は体の背側を走り、背鰭第8軟条付近で急激に下方に向かい、尾柄中軸部を直走する。

胸部側面の鱗は体側鱗の約1/2と小さく、前方に向かって小さくなる。後頭部には埋没した小鱗が部分的に不規則に配列するが、頭部の他の部分は無鱗である。背鰭前部の中央鱗は、前鰓蓋骨の上方よりやや後方まで達する。各鰭は無鱗であるが、尾鰭基部のみ鱗を被り、その鱗は後方に向かって小さくなる。腹鰭基部に後方へ突出する腋鱗がある。

背鰭起部は第2側線鱗の前縁上方に位置する。背鰭棘は後部に向い徐々に長くなり、背鰭第8または第9軟条が最も長い。臀鰭起部は最後部の背鰭棘の下方に位置し、臀鰭第1と第2棘は極めて短く、第2軟条が最も長い。尾鰭は始相では後縁が若干の丸みを帯びた載型で、終相では上下両端が後方にやや伸長する。胸鰭は第3および第4軟条が一番長い。腹鰭は短く、肛門には達しない。

生鮮時の体色 終相。頭部に2本の赤紫色の縦帯があり、うち1本は上顎から眼の上縁に延び、もう1本は口の後部から眼の下を通り鰓蓋骨の後方へと水平に頭部を通過する。この下側の縦帯は

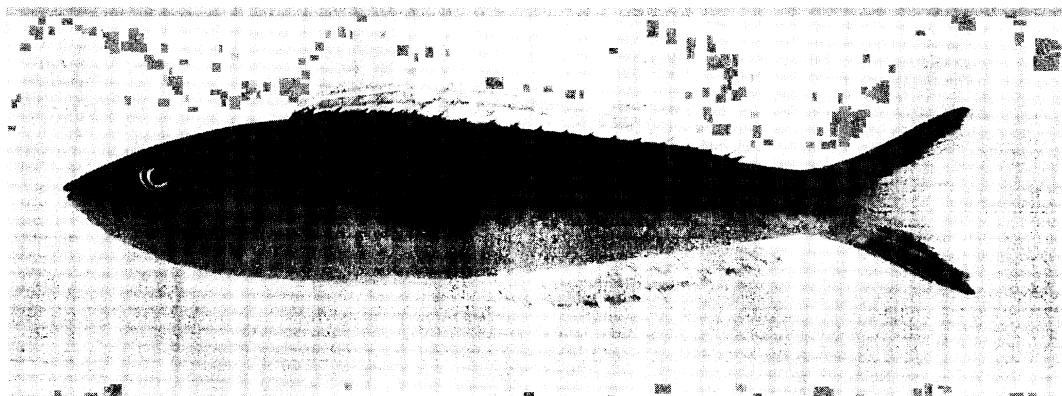


Fig. 1. *Pseudojuloides severnsi*, URM-P 17654, terminal phase, 89.2 mm SL, 38 m depth, Chibishi, off Naha, Okinawa, Japan.

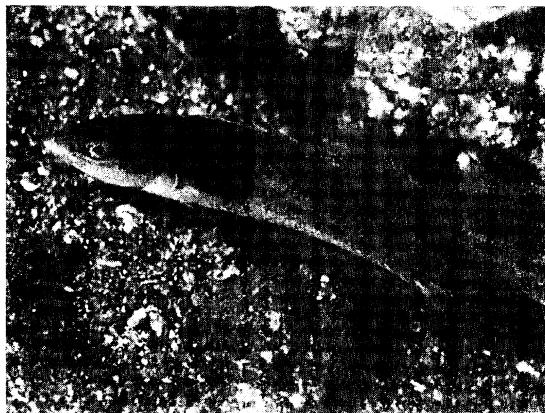


Fig. 2. *Pseudojuloides severnsi*, KPM-NR 62481, terminal phase, 27 m depth, Izu-oshima Island, Izu Islands, Japan (photo by H. Ohnuma).



Fig. 3. *Pseudojuloides severnsi*, KPM-NR 62547, initial phase, 24 m depth, Izu-oshima Island, Izu Islands, Japan (photo by H. Ohnuma).

さらに胸部へと続き、頭部後半から体前半部に広がる黒斑の下側の輪郭を形成する。この黒斑は眼窓後縁から背鰭最後棘までの頭部および体側部の背側に広がり、後方ではわずかに体側腹半まで延びる。頭部腹側から腹鰭基部前方は黄色みを帯びた灰色を呈し、腹部と体側中央部から尾鰭基部にかけては明るい黄色である。体前半部に広がる黒斑から尾鰭基部へ延びる2本の縦帶があり、それぞれ黒色と青色の小斑からなる。上方の縦帶よりも背側の体側は暗灰色。背鰭は透明で、その中央付近に鰭全長にわたって、背腹を暗色に幅狭く縁取られた淡橙色の縦帶がある。背鰭の前よりの基部は微妙に青色を呈する。臀鰭は桃色を帯びた透明で、青色の縦帶が縁近くを鰭全長にわたって

走る。尾鰭基部の被鱗部と尾柄部腹側は体側同様に黄色を呈するが、薄く橙色の色合いが加わる。尾鰭の背腹両縁に沿って幅の広い黒色帯があり、その外縁は幅が不規則で狭い淡青色になる。尾鰭の中央部は淡橙色みを帯びる。腹鰭は淡い黄色。虹彩の外側は黄色で、瞳孔周辺は赤色。

始相。体の背側は明るい橙色に近い赤色で、腹側に向かって灰白色に徐々に変化する。頭部腹側は灰白色。頸の前端より白色の縦帶が延び、眼窓の下方を通りその後縁に達する。口唇は白色。背鰭、臀鰭および尾鰭は淡橙色に近い赤色をした棘

および軟条を備え、鰓膜はそれよりも淡色。胸鰓は透明。虹彩は主に黃金色で、淡赤色の輪がある。

エタノール保存標本の体色 終相。 暗褐色の斑紋が眼窩後縁から体の背側を通り後方へ延び、腹側では眼窩中央から鰓蓋骨後方まで、体側では胸鰓基部上縁と腹部上方まで広がり、最後部は背鰓第7または第8棘下方まで達する。頭部の他の部分は淡色で、眼窩前縁から広い幅の薄い暗色の縦帯が延び、上顎基部に達する前にその幅は狭くなる。眼窩間から背中線沿いに上顎唇上へ延びる幅の不規則な暗色部がある。腹部および体側は淡灰色。体の上部および中央部には鱗よりも幅広い暗色の縦帯が2本あり、ともに暗色斑から尾鰓基部に達する。尾鰓の背腹両縁に沿って暗褐色帯があり、中央部は淡色。背鰓は淡色で、中央付近に縁辺が暗く縁取られた暗色縦帯がある。この縦帯は後方へ向かうにつれて不明瞭となる。背鰓後部の鰓条基部は暗色。臀鰓には外縁付近には暗色の縦帯があり、他の部分は透明感のある灰色。胸鰓および腹鰓は一様に淡色。

始相。 全身一様に淡色。生鮮時に見られた、顎の上部から眼窩の下方を通る白色の縦帯は、固定後には消失する。

備考 今回得られた標本は、計数計測値および体色が Bellwood and Randall (2000) が記載した *Pseudojuloides severnsi* によく一致する。本標本は、オグロベラ属魚類11種のうちオトヒメベラや *P. argyreogaster* (Günther) とは背鰓条数が少ないと (11 vs. 12)、胸鰓条数が多いこと (13 vs. 12)、背鰓前方鱗があること (vs. ない) で区別される。終相の標本は、頭部から腹側を除いた体側前部にかけて大きな黒色域をもつことで、全11種中 *P. severnsi* を除いた相が判明している8種と区別される (Randall and Randall, 1981; Kuiter and Randall, 1995; Bellwood and Randall, 2000)。一方始相の標本は、体の背側が明るい橙色に近い赤色で腹部および頭部腹側は灰白色になることで、オトヒメベラ (頭部腹側と腹部は橙色)、マイヒメベラ (背部は赤色から褐色)、*P. argyreogaster* (くすんだ緑色で頭部腹側と頬は黄色みを帯びる) と区別される (Randall and Randall, 1981)。さらに、オグロベラ、*P. pyrius* Randall and Randall および *P. erythrops* Randall and Randall とは明瞭な白色の縦帯が顎の上部から眼窩の下方を通り眼窩後縁に延びること (vs. 白色の帶はない、あっても不明瞭または部分的) により、*P. kaleidos* Kuiter and Randall とは尾鰓軟条は淡橙色

に近い赤色であること (vs. 尾鰓の上部1/3は暗い燈色みを帯びた赤色) により区別される (Randall and Randall, 1981; Kuiter and Randall, 1995; 荒賀, 1997; Kuiter, 2002)。しかしながら、スマツキオグロベラとの始相の体色による識別は困難である。残る2種の記載標本は相が不明で、そのうちの *P. xanthomos* Randall and Randall はインド洋のモーリシャスから雄1個体が知られているだけである。本標本は *P. xanthomos* とは背鰓前方鱗が少ないこと (7–8 vs. 12) と口角に犬歯状歯がないこと (vs. ある) で区別される (Randall and Randall, 1981)。*P. xanthomos* には頭部から腹側を除いた体側前部にかけての大きな黒色域がなく、顎の上部から眼窩の下方を通り眼窩後縁に延びる白色の縦帯もない (Randall and Randall, 1981)。もう1種の *P. inornatus* (Gilbert) は、バハカリフォルニアから雌雄不明の1個体のみ知られていて、体色もアルコール固定標本での記載のみである。本標本は *P. inornatus* とは背鰓第5棘と最後軟条の基部に小黒斑がないこと (vs. ある) で区別される (Gilbert, 1890)。以上のことから、終相の標本は上述した計数形質と体色によって、オグロベラ属全11種のうちの *P. severnsi* に同定される。また、始相の標本は *P. severnsi* かスマツキオグロベラの判断が出来ないが、*P. severnsi* に同定された終相の標本と同時にペアで採集された事実と各地での観察事例から、同様に *P. severnsi* に同定される。

本種の新標準和名アオスジオグロベラは、体側に見られる青色の2本の縦帯に由来し、本研究で使用した3個体のうちの終相を示す1個体 (URM-P 17654) に基づき瀬能 (2002) のガイドラインに従って提唱する。

分布 日本では慶良間諸島 (益田・小林, 1994; 本報告) および沖縄島 (本報告), 伊江島 (KPM-NR 36607), 高知県沖の島, 柏島 (Kuiter, 2002; 平田私信), 伊豆諸島伊豆大島 (KPM-NR 62481–62482, 62547–62549) に分布する。国外では、インドネシアおよびスリランカから知られている (Bellwood and Randall, 2000)。

謝 辞

沖縄島および慶良間諸島での標本採集に尽力された沖縄県宜野湾市の樹井昌智ならびに座間味村の小野篤司 (ダイブサービス小野にいにい) の両氏に感謝の意を表する。神奈川県立生命の星・地球博物館魚類写真資料データベースに資料提供された湯野川 恭 (伊江島ダイビングサービス) および

大沼久之（東京都大島町在住）の両氏、本種を含む柏島産オグロベラ属3種の画像を送って頂いた宇和島市在住の平田智法氏に感謝する。

引 用 文 献

- 荒賀忠一. 1997. ベラ科 Labridae. 岡村 収・尼岡邦夫（編），pp. 464–519. 日本の海水魚. 山と渓谷社，東京.
- Bellwood, D. R. and J. E. Randall. 2000. *Pseudojuloides severnsi*, a new species of wrasse from Indonesia and Sri Lanka (Perciformes: Labridae). J. South Asian Nat. Hist., 5: 1–5.
- Burgess, W. E., R. E. Hunziker and H. R. Axelrod. 1988. Dr. Burgess's atlas of marine aquarium fishes. TFH Publ., Neptune, NJ. 736 pp.
- Gilbert, C. H. 1890. A preliminary report on the fishes collected by the steamer Albatross on the Pacific coast of North America during the year 1889, with descriptions of twelve new genera and ninety-two new species. Proc. U. S. Natl. Mus., 13: 49–126
- Kuiter, R. H. 2002. Fairy & rainbow wrasses and their relatives—a comprehensive guide to selected labroids. TMC Publ., Chorleywood, UK. 208 pp.
- Kuiter, R. H. and J. E. Randall. 1995. Four new Indo-Pacific wrasses (Perciformes: Labridae). Revue fr. Aquariol., 21: 3–4, 107–118.
- 益田 一・小林安雄. 1994. 日本産魚類生態大図鑑. 東海大学出版会，東京. 47+465 pp.
- Parenti, P. and J. E. Randall. 2000. An annotated checklist of the species of the labroid fish families Labridae and Scaridae. Ichthyol. Bull. J.L.B. Smith Inst. Ichthyol. (68): 1–97.
- Randall, J. E. and H. A. Randall. 1981. A revision of the labrid fish genus *Pseudojuloides*, with descriptions of five new species. Pac. Sci., 35: 51–74.
- 瀬能 宏. 2002. 標準和名の安定化に向けて. 青木淳一・奥谷喬司・松浦啓一（編），pp. 192–225. 虫の名、貝の名、魚の名—和名にまつわる話題. 東海大学出版会，東京.
- 瀬能 宏・森田康弘・森下 修. 1997. 小笠原諸島から得られた日本初記録の魚類. I. O. P. Diving News, 8(2): 2–7.
- 鈴木克美. 1989. 硬骨魚類の雌雄同体現象. 栽培漁業技術開発研究, 18: 45–55.
- 島田和彦. 2000. ベラ科. 中坊徹次（編），pp. 969–1013, 1582–1587. 日本産魚類検索 全種の同定, 第2版. 東海大学出版会，東京.
- Yoshino, T. and H. Yoshigou. 1997. Records of four labrid fishes (Osteichthyes, Labridae) from Japan. Bull. Coll. Sci. Univ. Ryukyus, (64): 77–85.

訂正とお詫び・Errata

本誌50巻2号（2003年11月刊行）の「アオスジオグロベラ（新称）の日本からの記録」（昆 健志・吉野哲夫・瀬能 宏）論文中 p. 161, Figs. 1–3 の印刷が適切ではありませんでしたので訂正いたします。
著者の方々ならびに読者のみなさまにご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

Fig. 1



Fig. 2



Fig. 3

